

6 活動時の安全確保について

(1) 安全上の留意点について

- ▷ 参加者の健康状態の把握
- ▷ 熱中症や感染症等の予防策
- ▷ 天気予報や自然環境の確認
- ▷ 刃物を使用する場合の管理
- ▷ 緊急時の連絡体制の把握
- ▷ AED や担架、緊急避難場所の把握

- ・活動前に引率者による下見を必ず実施する。(順路や会場の確認、安全面の確保)
- ・活動に適応した服装と持ち物について徹底する。
- ・実施当日、引率者は各活動で必要なチェックポイントに立ち、参加者を安全に誘導する。
- ・車両の通行や危険生物等に注意を払うよう声をかける。

(2) 中止判断基準及び事故発生時の処置

①【共通事項】 以下の場合は、状況に応じて中止する。

- ◎ **急な天候の変化や事故、事件、災害等の有事が発生した場合**
- ◎ 大洲市に大雨・洪水・暴風・暴風雪・大雪警報のいずれかが発令されている時または今後発令が予想される時。職員とインターネット等で気象状況を確認し協議する。
- ◎ 実施場所で、土砂崩れの恐れがある場合や雷が鳴っているとき（活動中に雷が鳴ったら即中止）
- ◎ 熱中症警報等の季節毎で起こりうる警報や予報が出ている時

②各プログラム

【カヌー】

午前の部：8:00 実施判断 午後の部：12:00 実施判断

晴天時でもダムが放流している場合や水量が多い場合は、実施基準に基づき実施ができないことがある。その場合は職員の指示に従う。

【マウンテンバイク】

晴天時でも気象条件やぬかるみ等のコース条件により活動を中止する場合がある。

【クライミング】

多少の雨でも実施可能。クライミングウォールに雨が吹きこんでボードがすべる場合は協議の上、中止する。

【ウォークラリー・オリエンテーリング】

多少の雨でも実施可能。土砂災害警報や天候により見通しが悪く、活動時間中に支障をきたすことが予想される場合、協議の上、中止する。もしくは、ゴール設定やコース変更を行い実施する。

【グラウンドや営火場等の屋外活動】

多少の雨でも実施可能だが局所的な天候が続くようであれば協議の上、中止する。熱中症には十分注意を払う。

【野外炊飯場での活動】

荒天時も屋根があるため実施可能。局所的な天候が続き移動に支障があれば協議の上、対応を決定する。火傷や熱中症には十分注意を払う。

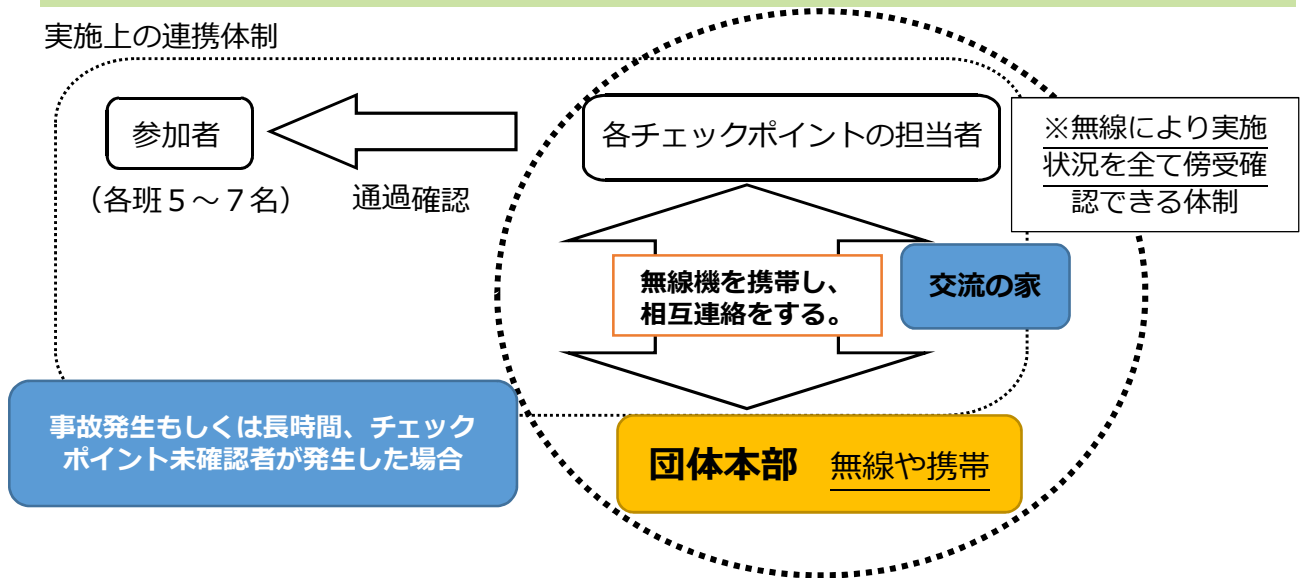
【ときが森こども冒険プログラム】

多少の雨でも実施可能だが局所的な天候が続くようであれば協議の上、中止する。熱中症には十分注意を払う。

荒天時プログラムについても事前に計画が必要です。

③ウォークラリー等の所外での班別活動における実施体制について

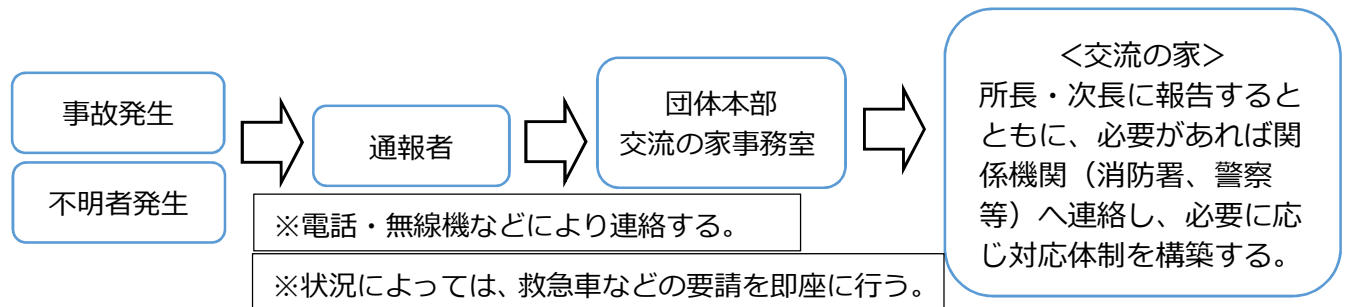
実施上の連携体制



④事故発生時の対応

- ▷ 責任者は事務所に緊急連絡（場所・状態）をするとともに応急手当等を行う。
- ▷ その際、発生時の記録をとっておくこと。

いつ・どこで・だれが・どのように・だれと・連絡先氏名・状況・症状・対応者名等



- (1) **人命救助活動**
 - 確認した指導者は、直ちに他の指導者と相互連絡を行い、携帯電話等で救急車の出動要請を行うと同時に救助活動を実施する。
 - 救急法、蘇生法で使用する用具の配置・AEDを持参し対応する。
- (2) **二重事故防止**
 - 初期対応の負傷者以外の参加者にも対応する。指導者が現場に複数いる場合は、他の指導者や他団体にも応援を求める。
 - 研修活動を直ちに中止し、実施中の用具の確認や他にけがをしているものがないかなど人員確認後、参加者全員を安全な場所に待機させる。
 - 二次災害が起きないように注意を払う。
- (3) **緊急対応時に収集する情報**
 - いつ（何時頃）、どこで（場所）、だれが（参加者・人数等）、どのように（事故状況）、どのような（処理状況及び関係機関への応援状況）